

# あずま小学校だより

学校通信 第8号 平成30年9月27日  
学校教育目標 よく考える子 思いやりのある子 たくましい子



## 第1回学校評価アンケートからの成果と課題・方策

7月にはアンケートにご協力下さりありがとうございました。集計結果をもとに、今後の主な方策をお知らせします。12月には第2回を実施しますので、またご協力をお願いいたします。



### アンケートの結果

### 考察と今後の方策

#### 成果

#### 1 学校の取り組みにご理解・ご協力下さるご家庭が多い

- Q1 「お便りを読んでいる」 95%
- Q2 「学校・子どもの様子がわかる」 92%
- Q3 「参観・懇談会等の行事に参加している」 94%

- ☆ホームページの「あずま小日記」の更新に心がけ、随時情報を発信していきます
- ☆今後も学年通信や学級通信等で学校やお子さんの様子をお伝えしていきます。

#### 2 児童に思いやりの心が育ち、学校が楽しいと感じている

- 保護者 「奉仕活動等を通して心が育っている」 90%
- 児童 「学校が楽しい」 94%
- 教師 「分かりやすい授業の工夫を行っている」 100%

- ☆学習効果があがるような体験活動や TT・教科担任制を充実させていきます。
- ☆「勉強が分かった」と感じられる成就感を持たせる機会を多く取り入れていきます。

#### 課題

#### 1 子どものことで相談したいときに気軽に話し合う雰囲気がある 84%

- ★日常的に児童に関する情報交換を行うように努めます。保護者の来校時、職員が明るく対応できるよう努めます。

#### 2 家庭学習や読書の習慣が身についているか。保護者 73% 児童 91%

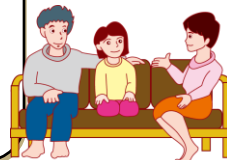
- ★毎日、漢字・音読・算数プリントなどの宿題を出し、学習習慣が身につくように支援します。親子の意識のずれを解消するため、「自ら行う」意識付けや時間の目安を提示します。



#### 3 将来の夢や希望について、話し合う機会がある

- 保護者 76%
- 児童 79%

- ★校外学習など大人から話を聞く機会では、その職業を選んだ話をしてもらいます。保護者の皆様も、ご自分の体験をもとに、親子で将来のことを話す機会を設けてみてはどうでしょうか。



平成30年度 第1回 学校評価アンケート集計

あずま小学校

設問	評価項目	対象	A+B		総合	改善の方策
			A	B		
1	学校の様子がわかる	保護者	92	80	A	学校・学年・学級通信の発行・ホームページの更新を継続的にいき、児童の様子を知らせていく。
2	諸行事・懇談会に出席している	保護者	94	80	A	PTAと連携して、行事の見直し・活性化を図る。
3	学校は相談等に適切に応じている	保護者	84	90	C	連絡帳・電話・面談等の方法を設定し、継続的に相談しつづける体制づくりに努め、啓発する。
4	授業がよくわかる	児童	94	90	B	教材研究の充実により、実態に応じた授業づくりに努める。パワーアップタイムで発展的な課題に取り組みせたり、基礎基本を徹底したりしていく。
5	テスト(国・算)の通過率が80点以上である	テスト正答率	92	80	A	児童が納得のいく指導に努める。わかるまでやり直しをするなど、実態に即した個別指導の充実を図る。
6	児童の変容の記録を集積し、支援や励ましを行っている	教師	94	90	B	思考の流れがわかるノート指導に努める。優れたノートを紹介し、賞賛する。活動の記録をポートし、ふりかえりの資料とする。
7	宿題・自主学習などの学習習慣が身に付いている	児童	91	80	A	図書室の本の貸し出しを推奨し、読書時間を増やす。家庭学習の優れた取り組みを紹介し、賞賛する。
8	児童はすすんであいさつできる	児童	92	80	A	児童会によるあいさつ運動を展開し、児童相互の働きかけを推進する。職員からも声かけを継続して行う。
9	児童は時と場に応じた言葉遣いができる	児童	91	80	A	日常指導で言葉遣いを指導する。家庭に向けても情報を発信していく。
10	児童は「学校が楽しい」と感じている	児童	94	80	A	学級経営において、個々の達成感・有用感を保障し、友だちと好ましい人間関係を築けるように支援する。
11	いじめがない、いじめは解消されている	児童	90	100	C	アンケートを定期的に行うとともに、日常の観察を継続し、児童自ら話し合い、解決できる活動を展開する。
12	児童はけんかやいじわるをせずに、仲良く過ごしている	児童	91	80	A	生活全般における道徳指導において、具体的な事例を通して継続的に指導する。
13	児童は「あずま小 生活の約束」を守っている	児童	90	80	A	守れていないと思われる事項について、具体的な指導点をあげ、重点的な指導を行う。月別生活目標に取り上げて意識化を図る。
14	児童は家でお手伝いしている	児童	84	80	B	道徳で重点的に指導するとともに、家庭での課題として位置づけて習慣化を図る。
15	間違った行動に対して、教師はきちんと対応してくれる	児童	95	80	A	指導の基準を共通理解して対応する。指導の事例研修を行う。
16	児童は毎日朝食を摂っている	児童	94	90	B	養護教諭と連携し、児童の意識を高める指導を行う。家庭に対して個別に対応する。
17	児童は夜きちんと寝ている	児童	88	80	B	保護者と連携して、規則正しい生活について指導する。保健委員会の取り組みを発信し、意識を高める。
18	児童は外で遊んだり、体を動かしたりしている	児童	84	80	B	休み時間に楽しく遊べるように、声かけをしていく。休日の過ごし方についても指導する。
19	学校は、安全確保・環境整備に努めている	教師	100	80	A	定期的な点検を継続するとともに、花壇の手入れ等計画的に行う。
20	学校は安全教育の徹底を図っている	教師	100	80	A	実際の避難訓練となるよう、改善を図る。ねらいに沿った安全教育の充実を図る。
21	学校は家庭・地域と連携して、通学路点検やハザードを行っている	教師	100	80	A	日常的に地域で児童の通学の安全を図れるようにする。
22	児童は将来の夢や希望について考えている	児童	90	80	A	家庭で話題に挙げていくことの重要性を啓発する。教師等の身近な大人の経験談を聞く機会を設定する。
23	将来の夢や希望について親子で話し合う機会を設けている	保護者	76	80	C	授業で扱い、家庭で話し合う課題を設定し、懇談会等でも話題として取り上げる。
24	学年学級経営案に基づき、教育目標の具現化に努めている	教師	100	90	A	経営案とその評価を共有化し、取り組みと振り返りから互いに学び合えるようにする。
25	教育課題や授業改善に向けて、意見交換できる人間関係になっている	教師	100	90	A	児童の様子・クラスの問題など、何でも話し合える雰囲気作りを心がける。
26	専門職としての資質向上、指導法の研究に努めている	教師	100	80	A	互いに授業を見合い、学び合いを実践する。学年合同での教材研究を充実させる。
27	職員会議が議題検討や意見交換の場になっている	教師	94	90	B	運営委員会→職員会議の流れを確認し、確かな共通理解を得られる運営に努める。
28	学校評価に基づき、共通理解のもと、改善策を具体化している	教師	97	80	A	保護者からの建設的意見を参考にし、課題を明確にし、実践・評価につなげていく。
29	校務分掌の編成は適切で、調整・連携は適切に行われている	教師	97	80	A	分掌の引き継ぎを確実にし、見直しをもって校務を果たせるようにする。
30	服務規律を意識し、信頼される教師・信頼される学校づくりに努めている	教師	100	80	A	職員会議ごとにチェックリストを用いて自らを振り返る機会を設け、月ごとの目標設定を確認しあう。
31	年間指導計画をもとに、1時間ごとのねらいを明確にした授業実践に取り組んでいる	教師	94	80	A	ねらいとまとめの明確な授業づくりに努める。年間指導計画の修正を計画的に行う。
32	校内研修(算数科)を通して、指導内容や指導方法の工夫・改善に努めている	教師	100	80	A	ブロックごとの授業研究会で確認されたことを日々の授業改善に取り入れる。
33	研修組織の運営・研修会の実施は適切である	教師	100	80	A	研修推進委員会を適切に運営し、方向性を確実にし、研修の充実を図る。
34	データファイルの共有化がなされ、業務の効率化が図られている	教師	94	80	A	データファイルの構成を工夫し、効率的に活用できるようにする。
35	個人情報の保護と管理が適切に行われている	教師	97	90	A	服務規律の遵守を意識し、絶えず個人情報保護の意識をもって行動する。
36	地域人材・施設を効果的に活用した授業実践をしている	教師	84	80	B	計画を整備し、学年ごとに内容に適したボランティアバンクの活用を計画・実践する。

総合評価基準 A: 目標値+10%以上(目標値90%のものは+5%以上) B: 目標値+10%未満 C: 目標値-20%未満 D: 目標値-20%以上